

研究課題名「婦人科悪性腫瘍の予後および臨床病理学的因子に関する包括的研究」に関する情報公開

1. 研究の対象

1986年1月1日以降に当院を受診され、婦人科悪性腫瘍（子宮がん、卵巣がん、卵管がん、腹膜がん、膣がん、外陰がん、絨毛がん等）を疑われて検査・治療を受けた20歳以上の患者さんを対象とします。

2. 研究目的・方法・研究期間

【目的】

婦人科悪性腫瘍は進行がんで診断された場合や再発した場合の予後が不良であることから、予後をより正確に予測するための疾病に特徴的な臨床所見を拾い上げることで今後の治療を最適化していくことができる可能性があります。そこで我々は、これまで当院で治療をさせていただいた多くの患者さんの臨床所見やデータと予後・生活状況等を解析することで、治療最適化の一助となるような研究を行っています。

【方法】

当院を受診され、婦人科悪性腫瘍（子宮がん、卵巣がん、卵管がん、腹膜がん、膣がん、外陰がん、絨毛がん等）を疑われて検査・治療を受けた20歳以上の患者さんを研究の対象とします。対象となった患者さんに関して、年齢・性別などの疫学的情報、症状の経過、治療内容の他、血液検査・CT・MRIなどの検査結果等の多様な診療で得られた情報について、診療録をもとに後方視的に収集しデータベースを構築します。個人情報保護を行うため、連結表を作成しデータベースとは別に保管します。氏名・住所など個人の特定につながるデータは収集いたしません。データベースおよび連結表を記録したハードディスクは施錠可能なロッカーに保管し、データベースを開く際にはパスワード入力します。電子媒体による外部へのデータ持ち出しを行いません。以上により外部への情報漏洩防止を図ります。発表や論文文化によって、個人が特定されることはありません。今回の研究に関連して、患者さんに新たに問診・検査・診察を行うことはありません。また、患者さんの診断に用いた生検・手術検体の一部を使用させていただき、そこに存在するタンパク質などの発現の状態を見ることで意義のある物質の同定につなげるための研究を行う場合もあります。

こういった診療で得られた情報や資料から得られるデータを集計・解析して、その後の予後や生活の質、全身状態の変化といった最終情報との関連性を検討します。

【研究期間】

実施承認日～ 2024年 3月 31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、抗がん剤治療の治療歴、副作用等の発生状況、カルテ番号、診断日、採血データ、身長、体重、画像データ

試料：手術あるいは検査で摘出した検体（子宮、卵巣等）

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

名古屋大学医学部医学系研究科産婦人科

担当：芳川 修久

住所：名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地

電話番号：052-744-2261

研究責任者：名古屋大学大学院医学系研究科産婦人科 准教授 梶山 広明